

# けんぽく

第19号[平成27年6月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成27年6月30日発行

## 「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

### ◆「大きくなあれ！」小学生が「バケツ稲づくり」と「大豆の種まき」に挑戦！

平成27年5月と6月、本宮市の岩根小学校の5年生58人が「総合的な学習」の時間を利用し、「バケツ稲づくり」と「大豆の種まき」を行いました。

5月22日（金）に行われた「バケツ稲づくり」では、始めにJ Aみちのく安達の職員からバケツ稲の作り方の説明を受けました。



バケツ稲の作り方を熱心に聞く児童たち

初めて水稻の苗にさわると児童がほとんどでしたが、地区の生産者や当農林事務所安達農業普及所の職員にいろいろと質問をしながら、バケツに土や肥料を混ぜ、水を入れてコシヒカリの苗を植えました。



コシヒカリの苗を植える様子

バケツに苗を円形に植える子、真ん中にまとめて

植える子など個性的な植え方も見られましたが、皆楽しそうに作業をしていました。

6月22日（月）に行われた「大豆の種まき」では、前日までの降雨で、作業ができるか心配されましたが、ほ場の排水が良く、予定どおり実施しました。

J Aみちのく安達の職員が大豆からできる商品は何かと質問すると、児童たちは「納豆」、「豆腐」、「きなこ」、「しょうゆ」、「みそ」などと元気に答え、身近な食品である大豆に高い関心を持っていました。

作業は、ほ場に一列に並んで行いました。印のついたヒモに沿って1株2粒ずつ丁寧に種をまき、地区の生産者が覆土を行いました。作業終了後、今後の大豆の生育と観察のポイントを聞いた児童たちは、何色の花が咲くのか楽しみにしているようでした。

秋の収穫を目指して子どもたちの観察が続きます。



曲がらないようにそっと大豆の種をまく様子

(安達農業普及所)

## ◆平成 27 年度「もも栽培基礎セミナー」を開催

平成 27 年 5 月から J A 新ふくしまと当農林事務所の主催で、新規栽培者を対象に、もも栽培の定着と更なる技術向上を図るために、果樹の基礎知識やももの栽培管理について学ぶセミナーを開催しています。

セミナーは全 5 回で、果樹用語や病害虫に関する学習と摘果やせん定などの実習といった内容となっています。座学は福島県農業総合センター果樹研究所を会場に実施し、実習は栽培農家のほ場を借用して行います。

第 1 回（5 月 22 日）の開講式では J A 新ふくしまと当事務所から歓迎の挨拶を行った後、当事務所の新



果樹の基本用語についての講義

採用職員が受講生と同じビギナーの視点で果樹の基本用語に関する講義を行いました。また、実習では予備摘果作業を体験しました。

第 2 回（6 月 5 日）は、植物ホルモンに関する講義と仕上げ摘果の実習を行いました。

10 名の受講生は、メモをとりながら積極的



実習(摘果作業)の様子

に質問をして、疑問を解消していました。特に実習では作業の勘所をつかもうと、ベテラン農家の管理方法を観察し、反復している姿が印象的でした。

(農業振興普及部)

## ◆ふくしまから はじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動県北地方推進本部総会を開催！

平成 27 年 6 月 19 日（金）、福島県農業総合センター果樹研究所大会議室において「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動県北地方推進本部」の総会を開催しました。

県北地方推進本部では、「食の安全・安心」、「生産再生」、「風評払拭・消費拡大」、「情報発信」の 4 つの運動に基づき、様々な活動を展開しています。

総会では、全国農業協同組合連合会福島県本部福島営農事業所、福島県北森林組合、ふくしま家づくりネットワーク、一般社団法人福島市公設地方卸売市場協会、公益社団法人福島県栄養士会県北支部、県北調理師会、NPO 法人ゆうきの里



総会の様子

東和ふるさとづくり協議会、伊達市農業委員会及び各農協や市町村など、生産から流通・消費に至る関係団体が出席し、今年度の事業計画等について協議しました。

また、会議の後半には、「つくる人と食べる人をつなぐ組織として ～(株) J・RAP の取組～」

と題して、株式会社 J・RAP (ジェイ・ラップ) 代表取締役伊藤俊彦氏から御講演い



J・RAP 伊藤代表取締役の講演

ただきました。伊藤氏の将来を見据えて精力的に農業に取り組んでいる事例を伺い、参加者の皆様も今後の活動の参考になった様子でした。

今年度も、県北地方推進本部では、県北地方の農林業の復興・再生に向けて取り組んでいきますので、御理解と御協力をお願いいたします！ (企画部)

## ◆JA伊達みらいが「農業塾」を今年も開講！

平成 27 年 5 月 27 日（水）に、JA伊達みらい本店大会議室において、JA伊達みらいが主催する農業塾の開校式及び第 1 回の講義が開催されました。

農業塾は、経験年数の少ない農業者を対象に、基本的な栽培の知識と技能を習得してもらうことを

目的として、当産地の基幹品目である「もも」と「きゅうり」の 2 コースを設けて約 10 年

前から開催されています。受講生の内訳としては若手就農者、定年帰農者、女性農業者が多く、毎年 30 名程度の方が受講しています。

開校式の終了後、早速それぞれのコースに分かれて

当農林事務所伊達農業普及所の職員が第 1 回の講義を行いました。質疑応答では、日頃の素朴な疑問から高度な栽培技術に関する内容まで様々な質問が積極的に出され、受講生達の

熱心さが伺える有意義な時間となりました。

今年度は「もも」コース 13 名、「きゅうり」コース 15 名が、各 6 回にわたって栽培技術についての講義や現地での実習、農業税務に関する研修などを受講する予定です。

（伊達農業普及所）



開校式の様子



第1回講義(ももコース)



第1回講義(きゅうりコース)

## ◆イノシシ「皮」から「革」へ

### 伊達市農林業振興公社の地域活性化の取組

伊達市農林業振興公社では、有害獣として捕獲したイノシシの皮を活用して、ネームホルダーや名刺入れ等を製作し、製品化・販売を目指す「猪革プロジェクト」を進めています。



試作販売中のストラップほか

同市では、被害防止対策の一環として捕獲されたイノシシを全て焼却処分している状況にありました。

そこで、イノシシの「皮」から「革」へ、地域資源を



伊達市農林業振興公社の左から佐藤代表理事、菅野専門員、梅津事務局長

新たな特産品に変え、農産物被害を減らすだけでなく、産業を興して雇用を生み出し地域活性化につなげる試みとして当プロジェクトがスタートしたのです。

昨年度までに試作品の製品化、販売に一定の見通しがついたことから、今年度からロゴマークの決定、ブランド化、新商品開発など年間を通した商品生産を目指していきます。

なお、試作販売中のストラップは阿武隈急行・保原駅構内にある伊達市観光案内所、伊達市霊山にある「りょうぜん紅彩館」（宿泊入浴施設）で購入できます。

（企画部）

## ◆ふくしま食育実践サポーターが活動しています！

平成 27 年 6 月 17 日（水）、福島県立福島北高校調理室においてふくしま食育実践サポーターの武田都さんによる食育活動が行われました。

武田さんは、食育に関わる様々な資格とキャリアを持ち、最近ではテレビ等の各種メディアで活躍されています。



ふくしま食育実践サポーターの武田都さん

今回は高校でフードデザインを選択している生徒 14 名を対象に、野菜ソムリエの立場から調理実習を通じて食生活の改善について御指導いただきました。

終了後、学校からは、「普段接することのできない野菜ソムリエの方に、野菜



調理実習の様子

についてだけでなく、ドレッシングに含まれる塩分量等についても分かりやすく説明していただき、野菜摂取量を増やし、塩分摂取量を減らすことの必要性を強く感じました。」「実習も楽しく積極的に取り組みました。」などの感想を頂きました。

（企画部）

### ふくしま食育実践サポーター制度を御活用ください。

福島県では、子どもを対象とした食育活動に取り組む学校や地域団体等からの要請に応じて食育実践サポーターを派遣しています。

派遣の申込みは、「県北地方における食育の推進」(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/kenn-poku-syokuiku-sin.html>) を御覧ください。

また、サポーターの登録は「ふくしま食育実践サポーターを募集しています！！」(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/sp-bosyu.html>) を御覧ください。

## ◆「伊達地方モモせん孔細菌病対策連絡協議会」を開催！

平成 27 年 5 月 28 日（木）、伊達合同庁舎 2 階会議室において、近年多発傾向にある「モモせん孔細菌病」の対応等を検討するため、伊達地方の市町、J A 伊達みらい、伊達果実農業協同組合、福島県北農業共済組合等の関係機関・団体が一堂に会し、「伊達地方モモせん孔細菌病対策連絡協議会」を開催しました。

管内における春季の多発発生状況や今後の防除対策等、指導上の留意事項について話し合い、春型枝病斑の徹底したせん除等、基本的技術の励行の重要性を確認しました。



会議の様子

（伊達農業普及所）

### 第 1 回

#### 「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン

地域の特性をいかした地産地消の推進キャンペーンです。多くの皆様の御来場をお待ちしております！

◆開催日時：平成 27 年 7 月 18 日（土）9:00～15:30

◆場 所：J A 伊達みらい農産物直売所

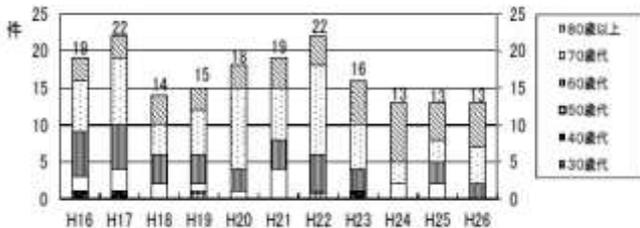
みらい百彩館「んめ〜べ」

※JA伊達みらい「みらいフェスタ」開催会場内

## ◆農作業中事故の防止のため

### 「トラクタ転倒通報アプリ」を御利用ください！

全国で毎年 300 人以上の方が、農作業中の事故で亡くなっています。そのうち県内では、毎年 15 名前後の方が農作業中の事故で亡くなっており、他の都道府県と比べても発生件数が多いと言えます。中でも、トラクタ運転中の転倒による死亡事故が最も多くなっています。

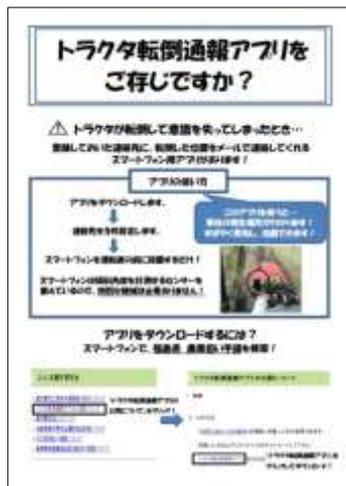


福島県内の農作業死亡事故の発生件数

福島県では、農作業中の死亡事故を防ぐため、農業従事者に「トラクタ転倒通報アプリ」の利用を呼びかけています。このアプリは、トラクタが転倒した時に、あらかじめ設定した5件の連絡先に転倒した位置をメールで知らせてくれるものです。連絡先の設定とスマートフォンを運転席の前に設置するだけで、特別な機器は必要ありません。福島県の農業担い手課ホームページ (<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021c/>) から無料でダウンロードすることができます。

農作業を1人でやっている時、事故が発生した時に発見が遅くなり、手遅れになってしまうことがあります。事故発生時の素早い救助のために、「トラクタ転倒通報アプリ」をぜひ御利用ください！また、身近な農業従事者の方にも、ぜひお勧めください。

(農業振興普及部)



アプリ活用を呼びかけるチラシ

## ◆「ふくしま おいしい大賞オンラインショップ」がリニューアル！最大 40%OFF！

福島県内で商品化された6次化商品が買える「ふくしま おいしい大賞オンラインショップ」のホームページ (<http://fuku-oishishop.com/>) がリニューアルされました。

リニューアル特典として、

①Web会員登録や商品を購入すると「電子助成クーポン」が配信され、初回商品購入時から最大40%割引になるキャンペーンの実施。

②「商品改善に向けたアンケート」に答えることで6次化新商品を無料でお試しいただける「新商品モニターキャンペーン」の実施

など魅力満載です。

贈答用にも便利ですので、この機会にぜひ御覧いただき、御利用ください。



贈答用セット商品カタログ「うまいもんふくしま」の表紙  
(※県北農林事務所、アンテナショップで入手可)

(企画部)

**ふくしま家づくりネットワーク “ふくしまの木で豊かなすまいを”**

○組織紹介

ふくしま家づくりネットワークは、平成16年に福島県内各地区の「ふくしまの木で家をつくるグループ」の中の一つとして設立しました。県北地区の製材所、木材販売、建築士、大工・工務店が一体となって、県産木材を使った家づくり（顔の見える木材での家づくり）に取り組んでいて、現在メンバーは18社です。

「ふくしまの木=地元材」を使うことにより、森林の手入れが進み、森林を守り育てることにつながり、輸送エネルギーの削減にもつながります。元気な森林は地球温暖化の主な原因である二酸化炭素を吸収し、地球環境にも貢献します。また、構成メンバーがネットワークを組むことにより、「地産地消」のシステムを構築して、大工技術・技能の継承と住宅の質の向上に努めています。グループとしての実施事業としては、一般の人も対象とした森林・木材市場・製材所等の見学会、技術研修会、住宅の現場・完成見学会を定期的に行い、ふくしま住宅フェア、林業際等のイベントにも積極的に参加し、地元材利用の普及・PR活動を行っています。



森林伐採現場見学会(南相馬市)

○その他

(1)平成21年に「ふくしまの家地域活性化支援事業」に応募し採択を受け、福島県の補助を受けて建設した展示住宅「ふくしまの家：きなり」が平成22年3月に完成しました。完成1年後に発生した東日本大震災でもびくともせず、その性能と安全性を証明しました。展示住宅「きなり」の見学については毎週末(土・日)オープンし会員が交代で見学者に対応し、週末以外は電話等で予約を受け対応します。福島で育った木をふんだんに使用した無垢の家を体験することができます。

また、展示場では各種イベント(きなりコンサート、講演会、料理教室、青空木工教室など)を開催し、気軽に展示住宅を見学してもらおう機会としています。



展示住宅「きなり」外観



展示住宅「きなり」内部



展示住宅「きなり」コンサート

(2)平成24年度から平成26年度まで3年連続、国土交通省による「地域型住宅ブランド化事業」の採択グループとなり、地域材を活用した木造長期優良住宅を供給しています。また、今年度から始まった「地域型住宅グリーン化事業」にも応募し、省エネルギー性や耐久性に優れた木造住宅・建築物の供給を目指しています。

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-535-0382

FAX 024-536-9590

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

